

# 平成26年度事業報告書

## はじめに

公益財団法人に移行して2年度目となる平成26年度は、新しい定款の目的である乳・乳製品の品質と食品衛生の向上、酪農乳業の振興に寄与し、かつ、豊かで健康に良い食生活に資するため、平成26年3月18日開催の第4回理事会で承認された事業計画に沿って事業を実施しました。

食品の品質、安全や表示への消費者の関心が引き続き高いことに加え、乳用牛の飼養頭数が140万頭を割り、生産基盤の弱体化が強く懸念されるなど、取り巻く厳しい環境の中で乳・乳製品の安定供給に取り組まれる関係者のご要望に的確にお応えできるよう、状況の変化に対応した事業及びそのための準備を実施しました。

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025認定試験所として、信頼性の確保・向上を図りつつ、業務の合理化・効率化、特に徹底した経費の節約により財務の健全化に努めました。

各事業の概要は、以下のとおりです。

## 〔公益目的事業〕

### 1 法令に基づく検査・認定

#### (1) 食品衛生法に基づく試験検査

輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

リステリア・モノサイトゲネスの規格基準、試験法が平成26年12月に改正されたことに対応し、新しい試験法による自主検査を受託できるよう標準作業書、試験手数料の改定を実施(平成27年2月)しました。

- ・食品衛生法に基づく命令検査:実績なし
- ・輸入乳製品(脱脂粉乳、バター、バターオイル、ホエイパウダー等)  
の自主検査:151検体(25年度103検体、24年度99検体)

#### (2) HACCP手法支援法に関する認定

「食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法(HACCP手法支援法)」が改正され、HACCPの導入に段階的に取り組もうとする(高度化基盤整備計画を作成する)乳業者も支援の対象とされたことに対応し、関係団体のご協力も得て、認定基準である「乳及び乳製品の高度化基準」及び認定業務規程の変更認可を受け(平成26年6月)、高度化基盤整備計画の認定業務を開始しました。業務案内を協会HPに掲載したほか、各種研修会、会合にて紹介しました。

- ・高度化基盤計画認定:1件(平成27年2月)
- ・高度化計画・高度化基盤計画に関する相談:5件

#### (3) 指定乳製品等検査

「畜産物の価格安定等に関する法律施行規則」等で定める規格に基づいて輸入乳製品の品質検査を実施しました。

生乳の需給状況から乳製品のカレント・アクセス分に加え追加輸入が行われたことに  
対応し、依頼者の要請に的確に応えるため、業務分担の変更や効率化等により、サン  
プリング、検査を実施しました。

種 類	平成26年度	平成25年度	平成24年度
バター	1,628 検体	417 検体	1,322 検体
脱脂粉乳	2,304 検体	542 検体	—
ホエイ及び調整ホエイ	262 検体	179 検体	190 検体
デイリースプレッド	78 検体	29 検体	81 検体
バターオイル	21 検体	27 検体	24 検体
計	4,293 検体	1,194 検体	1,617 検体

## 2 依頼による試験・調査

### (1) 依頼による試験

乳業関連団体、生乳生産者団体、乳業各社、商社等より依頼を受けて試験検査を実  
施しました。

パンフレット、チラシを積極的に配布したほか、一部試験手数料の見直しを実施しま  
した。

乳・乳製品の規格適合性や品質管理等を目的とした試験に加え、乳・乳製品の製造  
現場における内部精度管理を支援するための試験(パイロットサンプルの基準値設定、  
技能評価用試料の標準法分析等)も実施しました。

・受託品目： 生乳、飲用乳、発酵乳、脱脂粉乳、練乳、アイスクリーム、  
バター、チーズ、飼料用脱脂粉乳、その他食品等

・試験項目： 理化学  
乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、  
金属(Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等  
微生物  
細菌数、大腸菌群、耐熱性菌、リステリア、高温菌数等

検体数： 3,286 検体 (25年度:3,516検体 24年度:4,112検体)  
(うち放射能検査：639 検体 25年度:852検体 24年度:795検体)

### (2) 依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製品  
検査規程に基づく市販品成分検査と認定検査機関の実務調査を実施しました。実務  
調査は、製品検査規程に基づいて行われた成分検査について、台帳の監査、検査設  
備の確認、組織体制の確認等を行いました。

・市販品成分検査

	平成26年度	平成25年度	平成24年度
牛乳	372	354	345
加工乳	71	79	82
乳飲料	310	328	332
成分調整牛乳他	92	91	74
計	845	852	833

・認定検査機関の実務調査:33施設

### 3 研修会の開催・講師派遣

[協会主催の研修会]

生乳や乳製品の検査を行う技術者等を対象とした実技中心の3種類の研修会を計6回開催し、参加者は合計37名でした。

協会内に新設した研修室にて開催し、食品安全ミニ講義を追加しました。また、生乳検査技術研修会は、新任技術者が参加しやすいように5月の開催を新設しました。

出張研修会として、レイン・エイノン法による乳糖研修会を乳業工場にて実施しました。

開催実績：

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
生乳検査技術研修会 講義等：精度管理に関する講義、放射能検査(見学) 実技：乳脂肪分、たんぱく質、乳固形分、比重、体細胞数、抗生物質	5月 12 ～ 14日	3人
	7月 7 ～ 9日	3人
	10月 8 ～ 10日	2人
	11月 26 ～ 28日	8人
	計 4 回 ( 25年度 4回 ) ( 24年度 6回 )	計 16 人 ( 25年度 12人 ) ( 24年度 46人 )
発酵乳検査技術研修会 ・コース共通 講義等：乳酸菌・発酵乳に関する講義、放射能検査(見学) ・成分分析コース 実技：脂質、たんぱく質、水分 ・微生物管理コース 実技：乳酸菌、大腸菌群、黄色ブドウ球菌、乳酸菌数、ビフィズス菌数	12月 2 ～ 3日 微生物管理コース	15人
	11月 4 ～ 5日 成分分析コース	6人
	計 2 回 ( 25年度 3回 ) ( 24年度 2回 )	計 21 人 ( 25年度 14人 ) ( 24年度 22人 )
乳糖検査技術研修会(出張) 実技：レイン・エイノン法 於：北海道	1 回 ( 25年度 1回 ) ※ ( 24年度 2回 ) ※	3 人 ( 25年度 1人 ) ※ ( 24年度 5人 ) ※

※は協会での開催

[乳業関係団体の依頼による研修会]

2つの団体から依頼を受け、実技中心の研修会を計11回開催し、参加者は合計93名でした。

研修会の主催者、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査実技研修会 ・Aコース 講義等：精度管理に関する講義 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 乳固形分、比重、 滴定酸度 ・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 低温細菌数、 体細胞数、抗生物質 ・合併コース 実技：A、Cコースの合併	5月19～21日 合併コース	7人
	6月2～6日 合併コース	8人
	6月18～20日 Aコース Cコース	6人 5人
	6月30～7月4日 合併コース	5人
	7月28～8月1日 合併コース	8人
	9月24～26日 Aコース Cコース	6人 5人
	9月29～10月3日 合併コース	8人
	10月27～31日 合併コース	7人
	11月17～21日 合併コース	7人
	計9回 (25年度8回 24年度9回)	計72人 (25年度68人 24年度76人)
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査実技研修会 ・Aコース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分、単位重量 当たりの容量比 ・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 黄色ブドウ球菌、 抗生物質	12月15～17日 Aコース Cコース	7人 5人
	2月2～4日 Cコース	9人
		計2回 (25年度2回 24年度2回)

[講師派遣]

3つの団体から依頼を受け、のべ14名の講師を派遣しました。

研修会の主催者、内容等	期間	場所
一般社団法人日本乳業協会 官能検査員育成研修会 官能検査の実習の講師	7月 24 ~ 25 日	千代田区
	8月 7 ~ 8 日	
	1月 29 ~ 30 日	
	3月 12 ~ 13 日	
公益社団法人日本食品衛生協会等 HACCP実務管理者養成講習会 HACCP計画作成手順等の アドバイザー	7月 2、8、9 日	渋谷区
	11月 7 日	新潟県
一般財団法人蔵王酪農センター 国産ナチュラルチーズ製造技術 (専門・基礎)研修会 「安全なチーズを生産して いただくために」の講師	8月 18 日	宮城県
	10月 21 日	
	11月 26 日	
	3月 3 日	

#### 4 研究・技術・調査情報の提供及び発表

##### (1) 乳業技術誌の刊行

編集委員、執筆者のご協力を得て「乳業技術第64巻」を編集・刊行し、203冊を行政関係者、酪農乳業団体、乳業メーカー、研究者などに送付しました。

##### 編集委員

武田 安弘	森永乳業株式会社 栄養科学研究所 所長
金丸 義敬	岐阜大学 応用生物科学部 教授
星野 昌彦	協同乳業株式会社 研究所 技術開発グループリーダー
藤川 浩	東京農工大学 大学院 教授
齋藤 忠夫	東北大学大学院 農学研究科 教授
土田 博	株式会社明治 技術開発研究所 専任部長
堂迫 俊一	雪印メグミルク株式会社 ミルクサイエンス研究所 主事
松田 幹	名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授

##### 編集幹事

細野 明義	公益財団法人日本乳業技術協会 代表理事
-------	---------------------

##### テーマ及び執筆者

乳糖不耐と遊離脂肪酸をリガンドとする GPCR(G-protein coupled receptor) (須山享三 東北大学名誉教授) (市村敦彦 京都大学大学院)
トリアシルグリセロール(TAG)異性体分析 の発展と乳脂分析への応用 (永井利治 月島食品工業株式会社) (後藤直宏 東京海洋大学大学院)
発酵乳製造における最新の培養技術 (堀内啓史 株式会社明治)
ミルクオリゴ糖を中心とした乳成分の進化 (浦島匡 帯広畜産大学大学院)

## (2) 全国集乳路線別生乳成分調査

全国の生乳成分（乳脂肪分、無脂乳固形分）の調査を昭和50年以降継続して実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第40報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

平成26年(1～12月)の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で7,474(前年比-192)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバー率は40.0%(前年比+0.7)でした。

協力会社名 (50音順)

協 同 乳 業 株 式 会 社	グ リ コ 乳 業 株 式 会 社
信 州 ミ ル ク ラ ン ド 株 式 会 社	新 潟 県 農 協 乳 業 株 式 会 社
北 陸 酪 農 業 協 同 組 合 連 合 会	株 式 会 社 明 治
森 永 乳 業 株 式 会 社	雪 印 メ グ ミ ル ク 株 式 会 社
よ つ 葉 乳 業 株 式 会 社	

F, SNFの地域別平均値(%)

地 域	F	SNF	地 域	F	SNF
北 海 道	3.890	8.798	東 海	3.853	8.784
東 北	3.880	8.718	近 畿	3.884	8.766
関 東	3.844	8.761	中 国	3.864	8.795
北 陸	3.891	8.795	四 国	3.862	8.752
東 山	3.799	8.666	九 州	3.933	8.773
			全 国 平 均	3.885	8.789
			( 平成25年度	3.898	8.787
			平成24年度	3.906	8.787

## (3) 技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験・検査技術等についての酪農乳業関係者からの問い合わせにお答えするとともに、生乳検査精度管理、研修会等に関する情報を協会HPに掲載しました。

また、協会HPについて、試験検査や研修会などの掲載内容がよりわかりやすく探しやすいようこころがけ、次のような改善等を行いました。

HPに新たに掲載したり、内容を改善したもの

- ・校正用試料乳、生乳検査精度管理外部精度管理調査の案内
- ・研修会の開催案内
- ・国際酪農連盟日本国内委員会の情報

また、次の各事業を実施しました。

### ① 規格適合検査技能向上促進対策事業：農林水産省補助

乳製品検査の技能水準の向上に資するため、成分検査の実態を調査し、ばらつきの評価等を実施し、その原因の検討等のための実地調査も行き、改善案等を取りまとめる事業を実施しました。

参加施設数 : 118

実地調査施設数 : 3

### ② ファームチーズ品質管理体制強化対策事業：農林水産省補助

小規模事業者のファームチーズの品質管理技術の向上に資するため、品質管理に係る実態を調査し、改善案等を取りまとめる事業を実施しました。

対象製造施設数 : 3

#### (4) 関係機関、関係団体との連携

酪農乳業関係団体等の会合への出席等を通じ、情報共有、意見交換等に努めました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会
(一社)日本乳業協会	定時社員総会
(一社)日本乳容器・機器協会	定時社員総会、理事会
(一社)食品衛生登録検査機関協会	通常総会
(一社)Jミルク	生乳検査精度管理認証特別委員会
(一社)Jミルク	生乳検査精度管理委員会
(一社)Jミルク	牛乳の日 記念学術フォーラム
チーズ公正取引協議会	常任委員会、専門部会
(公社)畜産技術協会	定時総会、理事会
(公社)中央畜産会	定時総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会
関東生乳販売農業協同組合連合会	関東生乳品質改善共励会 (代表理事賞の交付)
チーズプロフェッショナル協会	第5回日本の銘チーズ百選(後援)
(一社)中央酪農会議	「酪農家のための乳製品製造 スタートガイド」(監修)

#### (5) 研究成果の発表

生乳検査精度管理に関する検討結果等を協会HPに掲載しました。

### 5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持するために、測定機器校正のための試料乳の配布を、乳成分用は昭和58年から、体細胞数用は昭和62年から行うとともに、生乳検査外部精度管理調査を平成9年から実施しています。

#### (1) 測定機器校正用の試料乳の配布

配布数は、平成25年度と比較して乳成分用が5セット、体細胞数用が2セット減少しました。

乳成分用の試料乳については、当協会の標準法による測定値を添付しています。なお、乳脂肪分及び無脂乳固形分試験においてISO/IEC 17025を取得しています。

また、試料乳を用いた校正方法について、全国の試料乳使用事業所において利用できる統一モデルを提案することをめざし、毎月のデータを積上げることによってデータ数を増やした形で行う校正方法と、過去のデータを反映させない校正方法との検証を進めており、その途中結果は、毎月の試料乳配布時に合わせて12回、参考資料として協会HPに掲載しました。

乳成分用試料乳配布数 2,817セット  
(25年度2,822セット、24年度2,858セット)

体細胞数用の試料乳については、当協会を含め国内3機関の測定機(フォソマチック)を基準(マスターマシン)とし、3機関の測定した値の平均値を添付しています。なお、3機関のマスターマシンは、MRI(Max Rubner-Institut)の主催する国際リングテストに参加しています。

体細胞数用試料乳配布数 353セット  
(25年度355セット、24年度383セット)

## (2) 生乳検査外部精度管理調査

調査項目は乳成分及び体細胞数で、4月、7月、10月、1月の年4回実施しました。各参加事業所から報告された測定値について統計処理を行い、乖離図、zスコア、ヒストグラム等を含む報告書を作成し、送付しました。また、参加事業所のHPへの公表と参加証の発行を開始しました。

参加事業所数 103 (25年度105、24年度114)

## (3) 生乳検査精度管理認証制度の調査

生乳の品質管理、流通の合理化、さらなる品質改善に資することを目的に酪農乳業界が一体となって進める生乳検査精度管理認証制度において、一般社団法人Jミルクの委託を受け、更新施設についての書類調査と現地調査を行いました。

調査実施施設数 更新1施設  
(25年度新規4施設、24年度新規5施設、認証施設合計46施設)

## 6 国際酪農連盟日本国内委員会

国際酪農連盟(IDF)の一会員国として、国内の酪農乳業関係者と協議しつつ、IDF事業、国際食品規格(CODEX)事業及びIDF/国際標準化機構(ISO)分析法検討事業を中心に以下の活動を事業計画通りに実施しました。

①国内専門部会を25回開催し、乳製品(プロセスチーズ及びフォローアップフォーミュラ)に係るCODEX規格及びIDFに係る活動等について協議し、情報共有を行いました。また、IDFからの16件の質問状について関係専門部会で回答を作成し、IDFに回答しました。さらに、コーデックスに係る事項に関して当連盟の意見等を農林水産省及び厚生労働省に提出しました。

②IDFワールドデーリーサミットは主催国の事情により中止になりましたが、IDF及びCODEX関係の計19の国際会議に延べ69名が出席しました。これら国際会議の出席者による、平成26年度国際会議出席報告会を平成27年3月に会員、専門委員等108名の参加を得て実施し、情報共有を図りました。

③関連情報・資料をまとめた刊行物を7冊発刊し、会員・専門委員・政府関係者等に配布しました。

また、幹事会は、平成26年5月、9月及び平成27年2月、3月の4回開催しました。

## 〔収益事業〕

### 賃借室等賃借

所有する土地建物の貸借業務を民間事業者へ委託して行い、計画どおりの運用益が得られ、公益目的事業に充当しました。



## 〔報告事項〕

### 1. 庶務事項

平成 26 年 4 月 7 日	農業競争力強化対策事業実績報告書提出 (農林水産省)
平成 26 年 4 月 16 日 ～ 30 日	公認会計士 指導・監査
平成 26 年 4 月 28 日	HACCP手法支援法高度化計画認定状況等 報告書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 26 年 5 月 8 日	HACCP手法支援法事業計画及び収支予算 変更認可申請書提出 (厚生労働省・農林水産省)
平成 26 年 5 月 14 日	監事監査
平成 26 年 5 月 20 日	第5回理事会(別記)
平成 26 年 5 月 29 日	第3回評議員会(別記)
平成 26 年 5 月 30 日	消費税、法人税等確定申告及び納付 (麴町税務署他)
平成 26 年 6 月 30 日	事業報告書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
平成 26 年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出 (東京労働基準局)
平成 26 年 7 月 15 日	社会保険算定基礎届完了
平成 26 年 8 月 15 日	農業競争力強化対策事業成果報告書提出 (農林水産省)
平成 26 年 9 月 10 日	ISO認定試験所の定期サーベイランス (公益財団法人日本適合性認定協会)
平成 27 年 1 月 6 日	乳業諸団体新年賀詞交歓会
平成 27 年 1 月 9 日	平成27年度日本中央競馬会畜産振興事業 応募(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
平成 27 年 1 月 28 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
平成 27 年 1 月 30 日	農業競争力強化対策事業補助金遂行状況 報告書提出(農林水産省)
平成 27 年 2 月 12 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査 (厚生労働省 関東信越厚生局)
平成 27 年 3 月 18 日	第6回理事会(別記)
平成 27 年 3 月 31 日	HACCP手法支援法に係る事業計画書収支 予算書提出(厚生労働省・農林水産省)
平成 27 年 3 月 31 日	事業計画書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
〃	事業年度終了

## 2. 会 議

第5回 理事会（平成26年5月20日）

- 1) 平成25年度事業報告及び計算書類等の承認の件
- 2) 諸規定を変更する件
- 3) 評議員会の日時・場所及び付議すべき事項の決定について

第3回 評議員会（平成26年5月29日）

- 1) 平成25年度事業報告及び計算書類等の承認の件
- 2) 理事及び評議員の選任の件
- 3) 諸規定を変更した件

第6回 理事会（平成27年3月18日）

- 1) 平成27年度事業計画書及び収支予算書等の承認の件
- 2) 事業の執行状況報告

## 3. 役 員

平成26年5月29日

下記の役員辞任に関し、第3回評議員会で理事1名を選任。

辞任 理 事 岩附 慧二  
就任 理 事 青山 和夫

平成27年3月31日現在

代表理事 細野 明義  
業務執行理事 栗本 まさ子  
理 事 青山 和夫、阿久澤 良造、安部 俊朗、  
海野 研一、小久保 彌太郎、齊藤 新一、  
松田 幹、宮本 拓、山登 正夫、横田 滋  
監 事 廉林 秀規、保井 久子

## 4. 評 議 員

平成26年5月29日

下記の評議員辞任に関し、第3回評議員会で評議員3名を選任。

辞任 小坂橋 正人、平川 正勝、山崎 直昭  
就任 尾崎 玲、白川 公一、三浦 晃一

平成27年3月31日現在

相川 勝弘、青木 孝良、大塚 誠司、尾崎 玲、  
川村 和夫、齋藤 忠夫、迫田 潔、島崎 敬一、  
白川 公一、高谷 幸、中野 吉晴、前田 浩史、  
三浦 晃一、南 俊作、宮原 道夫、吉川 正明

## 5. 国際酪農連盟日本国内委員会

平成27年3月31日現在

会 長	海野 研一
副 会 長	強谷 雅彦、山登 正夫
常任幹事	栗本 まさ子
幹 事	梅崎 信彦、川村 和夫、クリス・ケネリー、 小久保 彌太郎、迫田 潔、塩澤 博紀、 島崎 敬一、菅沼 修、清家 英貴、 高瀬 光徳、瀧澤 喜造、中村 裕忠、 堀 澄也、堀口 英樹、馬瀬口 弘志、 三浦 晃一、横田 滋
監 事	岡本 正文、丸川 道裕
専門部会代表	小出 薫
同 補佐役	有田 宏行

## 6. 職員等の異動

期首人員	19 名
採用者	0 名
退職者	0 名
期末人員	19 名

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年5月

公益財団法人日本乳業技術協会